

## 谷村 裕嗣 氏 学位審査結果の要旨

主査：野村 昌作

副査：上野 博夫、藺田 精昭

サルコイドーシスの病態の中心である類上皮細胞肉芽腫形成には **monocyte/macrophage** 系細胞が大きく関与している。**CD163** は **scavenger receptor cycteïn-rich superfamily** の一種で **monocyte/macrophage** 系細胞に発現しており、免疫刺激により細胞表面から脱落し可溶性フォーム(**sCD163**)となる。そこで申請者(谷村裕嗣)は、サルコイドーシスの病態における **sCD163** の関与を検討するために、患者血清中の **sCD163** を測定し、サルコイドーシスの既知の病勢マーカーとの相関性を解析した。その結果、**monocyte/macrophage** 系の活性化指標である **sCD163** が患者血清中で上昇し、病勢指標である血清 **ACE** 値、**sIL-2R** 値と相関していることを見出した。さらに、**in vitro** の実験で多核巨細胞形成時の培養上清中の **sCD163** も有意に上昇しており、このことはサルコイドーシスにおける肉芽腫形成が **sCD163** の上昇要因であることを強く示唆した。以上のことから、血清中の **sCD163** を測定することはサルコイドーシスの病態を把握する上で極めて重要であると考えられた。以上より、本研究は学位に充分値すると判断した。